

がんの漢方薬治療とその周辺

滝原 章宏

帯津三敬塾クリニック

がんは免疫系の疾患で、長年にわたり心身に負荷がかかることにより生じる。すなわち、過去の人生の総決算の病である。従って肉体的、精神的のゆがみに気づきこれを正してゆくことで、治癒への道がひらかれる。がんは気づきの病といわれるゆえんでもあり、これ以上。今の生活を続けてゆけば、死に至ると警告を発してくれているのである。

当院では、がんと心の関係を説明しながら西洋医学、伝統医学、代替療法を併用している。伝統医学の中の東洋医学では、がんは、身体側の正気が低下し、陰陽のバランスのくずれから生じる、気滞、湿聚、痰飲、瘀血が長期に身体に存在することにより熱毒が発生し、これが組織を焼灼し、がんを生じると考える。したがって、この病因病機に対応して、弁証論治を施すことになる。さらに中国では、抗がん生薬が発見、応用され、弁病によりこれらを使用することが可能になっている。

東洋医学的治療とへいこうし、日ごろの養生、栄養、睡眠、運動、休養、心の安静も患者さんに説明しているが、私自身が感じている、水分摂取、栄養面の注意を紹介する。中薬治療による症例も提示の予定である。